

『カラマーゾフの兄弟3』おもな登場人物



アリョーシャ (アレクセイ・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の三男。
ミーチャ (ドミートリー・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の長男。先妻アデ
ライダの子。退役将校で、放蕩のかぎりをつくす激しい性格。グルーシエニカに入れあげる。
イワン (イワン・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の次男。
フョードル (フョードル・パーヴロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の淫蕩な父親。
スメルジャコフ……カラマーゾフ家の料理番。召使グリゴリーとマルファの夫婦に育てられる。
ゾシマ……町の修道院の長老。慈愛にみちた高德の人物で、人々の尊敬を集めたが死去。
グルーシエニカ (アグラフェーナ・アレクサンドロヴナ)……町の老商人クジマ・サムソノフの
囲われ者だった、妖艶な美人。カラマーゾフ家の父親、兄弟たちと深くかわる。
カテリーナ (カテリーナ・イワーノヴナ)……愛称カーチャ。ミーチャに恩義を感じ婚約者となる。

DIC
2397p

DIC
2512p

カラマーゾフの兄弟3

しおり (表面)

フェラポント神父……齋戒と沈黙の行をつづける、神がかり的な高齢の修道僧。ゾシマを敵視。
ホフラコワ夫人……町の裕福で気まぐれな未亡人。娘のリーズは、アリョーシャの婚約者。
サムソノフ……町の商人でグルーシエニカの後見人。豪邸に住むしたたかで独善的な老人。
ラキーチン……愛称ラキートカ。出世志向の嫌味な神学生。グルーシエニカの「親戚」。
フェーニャ……正式名フェドーシア。グルーシエニカが暮らす、モローゾフ家の陽気な女中。
リヤガーヴィ……「獵犬」という呼び名だが、本名ゴルストキン。森林売買の商談相手。
ベルホーチン……町の裕福な若い役人。ミーチャにあれこれ気を使い、金を貸したりする。
ムシャロヴィチ……グルーシエニカの元恋人。ポーランド人の「将校」。ヴルブレフスキーは旅仲間。
カルガーノフ……気立てのよい知的な美青年。地主マクシモフと行動を共にする。
トリフォーン……モククロエの旅籠屋の主人。守銭奴で、ミーチャの大宴会を監視している。
ネリユードフ……名前はニコライ。ペテルブルグの「ロースクール」を出た若く有能な予審判事。
イッポリート……頭脳明晰な検事補。肺病の気がある。町では「検事」といわれている。

DIC
2397p

DIC
2512p

カラマーゾフの兄弟3

しおり (裏面)